

◆◆開催報告◆◆

3/18 土 生活支援体制整備事業シンポジウム 活躍の場は地域にあります

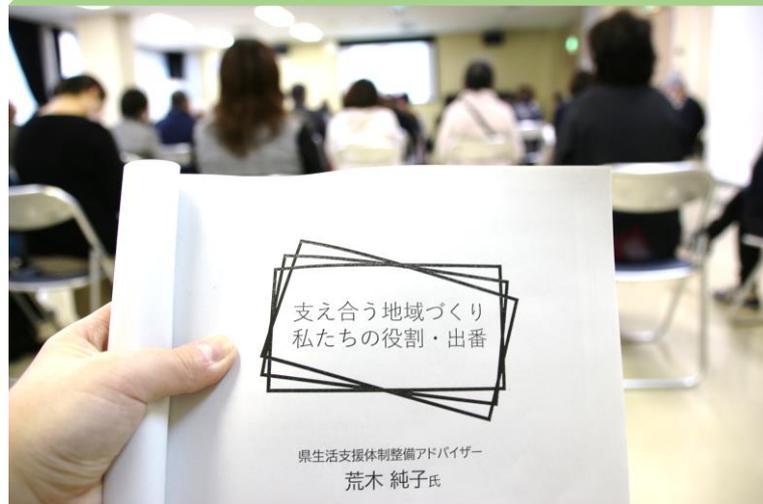
令和5年3月18日(土)町農村環境改善センターにて「生活支援体制整備事業シンポジウム～活躍の場は地域にあります～」が開催されました。住民を中心に福祉関係者など57名が参加しました。

“住み慣れた我が家で、親しんできたこの地域で、ずっと暮らしていく”私たちは自然とそう考えています。しかし、その願いを叶えるためには、加齢や病気などで生活に手助けが必要になったと



き、介護保険制度などの公的なサービスだけでは対応できない課題が多く存在します。そうした課題を解決するために注目されているのが“**住民主体の助け合い・支え合い**”です。そうした取り組みを高根沢町でも展開するため、助け合い活動の先駆者の方々からお話をいただきました。今回のシンポジウムは、地域住民や福祉事業者、行政、社協の貴重な学びの機会となりました。

基調講演



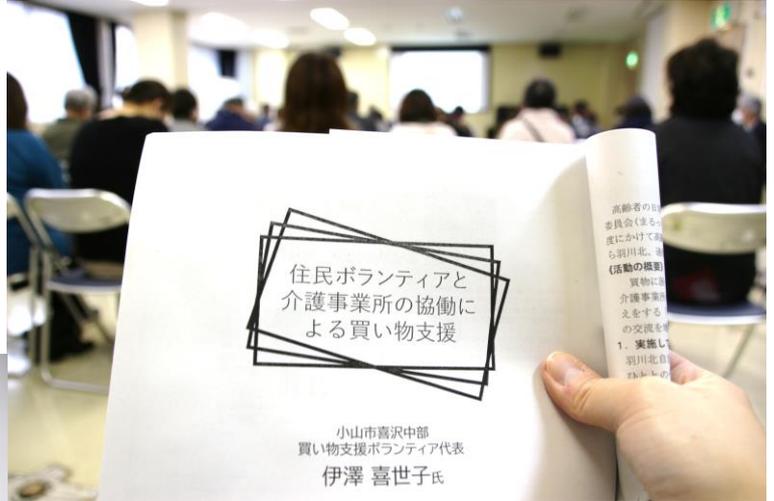
県生活支援体制整備アドバイザーであり、自身が理事長を務めるNPO法人ゆっくりサロン（那須町）の事業を通して、長年、住民主体の助け合い活動に取り組んでこられた荒木純子さんにご講演いただきました。助け合い活動の意義や効果を、ご自身の経験談を交えながらわかりやすくお話いただ

きました。特に、活動の担い手として「**私たちが地域で活躍する番です**」との言葉が印象的でした。また、講演の最後に参加者の皆さんと一緒に歌った「**地域の人に出来ることの歌**」は、わかりやすく助け合いを伝える手段として今後も活用させていただきます。



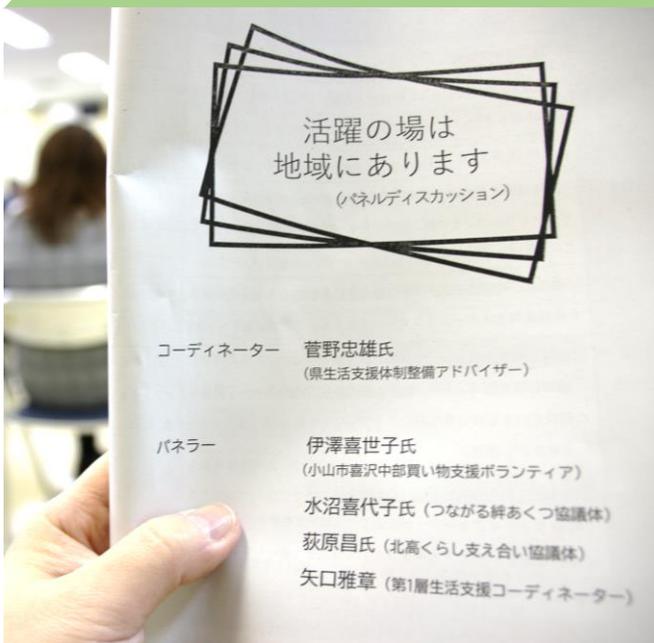
実践報告

住民同士の助け合い活動を実践する小山市喜沢中部買い物支援ボランティア代表の伊澤喜世子さんの実践報告では、「買い物支援は“これから先の自分”にとって必要な活動だからやっただけです」との言葉を体現するように、**地域課題を自分事**として



熱意をもって取り組まれているとお話されていました。また、利用者からいただく「**ありがとう**」の言葉がなんとも言えず嬉しい気持ちになることを教えていただきました。

パネルディスカッション



最後に行われたパネルディスカッションでは、阿久津中学校区の“つながる絆あくつ協議体”の活動を水沼喜代子さんに、北高根沢中学校区の“北高くらし支え合い協議体”の活動を荻原昌さんにそれぞれ発表していただき、実践報告者の伊澤さんから取組の助言をいただきながら高根沢町の取り組みを共有しました。パネルディスカッションのコーディネーター（進行役）をしていた高根沢町在住の県生活支援体制整備アドバイザー菅野忠雄さんからは、阿久津地区の「つながるアイたかねざわ」や北高根沢地区の「たんたん号利用チラシの作成」はこれからの**住民同士の助け合い活動の種**になる活動であるとのコメントをいただきました。最後に、第1層生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の矢口雅章さんから、高根沢町での支え合い活動実現に向けたスケジュールの提案があり、皆さんの賛同を得て終了しました。



最後に

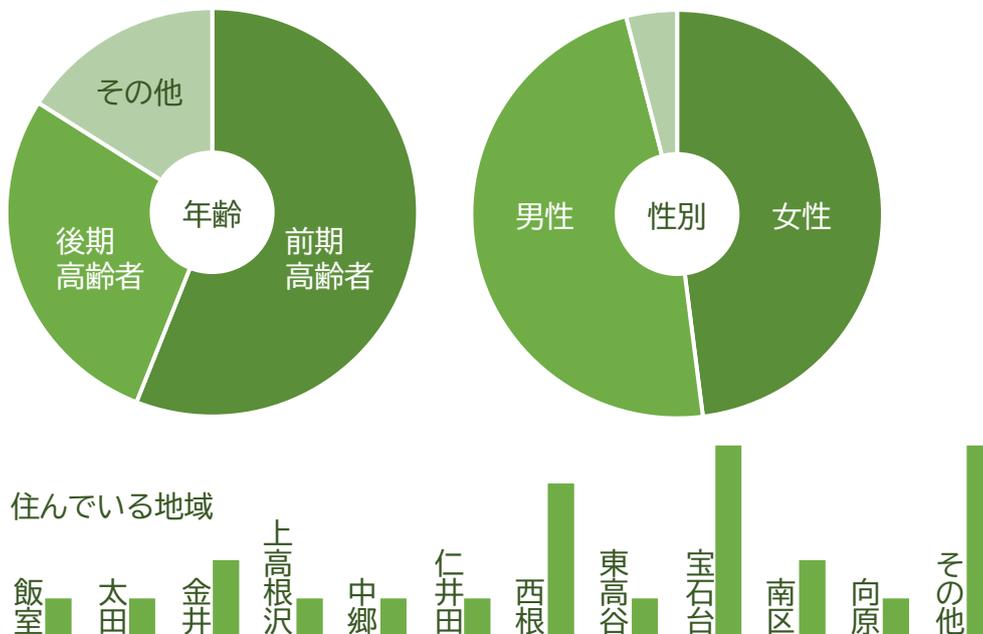
誰もが役割を持って、助けたり助けられたりできる地域になるためにはどうすればよいのか、講演のほか、実践報告、パネルディスカッションを通して参加者の皆さんと課題を共有する機会となりました。結果として、新たに8名の方が今後の住民同士の助け合い活動の勉強会に加わっていただけることになりました。当日ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。

※このシンポジウムは、高根沢町生活支援第1層協議会が主催しました。支え合いのある地域を目指し、町全体で取り組むための仕組みづくりをしています。

※報告内容に興味のある方、詳しく聞きたい方は是非ご連絡ください。

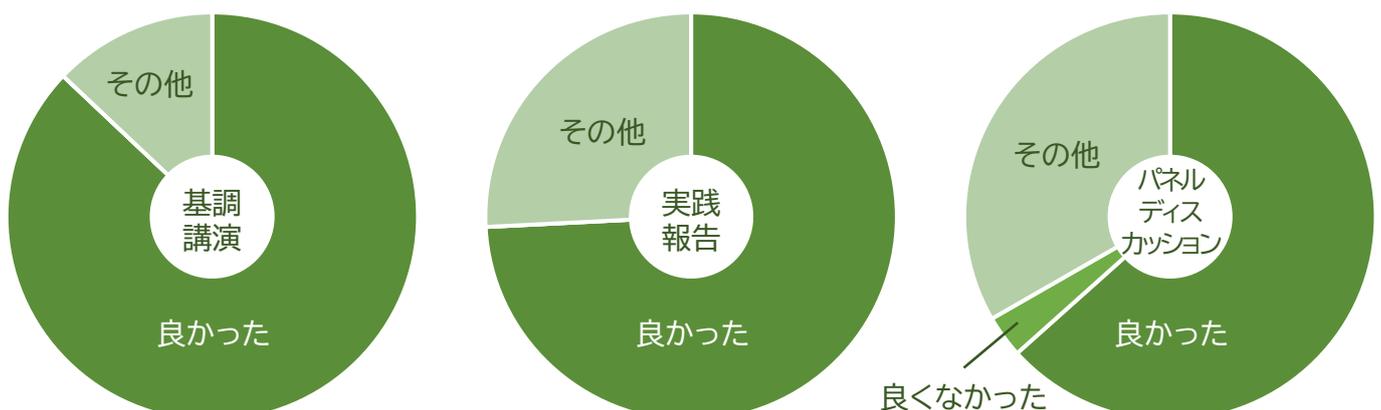
アンケート結果報告

◆◆ 参加者について ◆◆

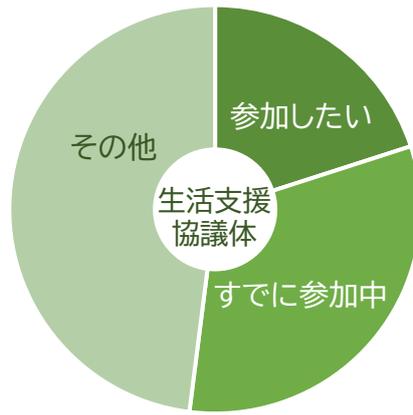
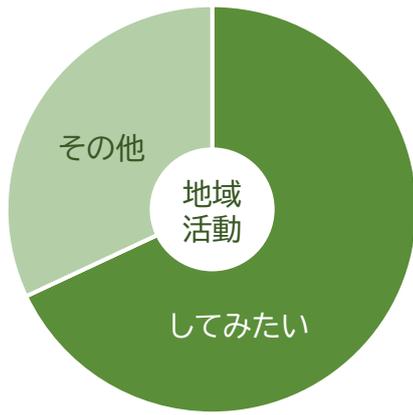


このほか福祉事業所からの参加：5事業所、6人

◆◆ シンポジウムの内容について ◆◆



◆◆ 地域活動について ◆◆



活動できそうな内容

